

2017年(平成29年度)複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	II-1 低炭素・省エネルギー社会の構築	施策 No.	9	施策名	森林整備によるCO2 吸収の推進
目的、内容	優先的に整備すべきエリアを設定し、公的な森林整備を重点的に実施するとともに、地域住民や企業など多様な主体の参画のもと、エリアに応じた効果的な森づくりを推進する制度を創設				
副次的効果、外部効果等	①森林のもつ生物多様性の保全、景観、水源涵養、防災、レクリエーションの場の提供など多面的な効用の増進に資する。 ②地域とともに森づくりにかかわることにより、コミュニティの強化、観光・教育・福祉の効果などの効果が期待できる。				
関係法令、行政計画等	①大阪府自然環境保全条例： ②大阪府地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（2012年3月）：計画の本分野の行動計画として進行管理を実施 ③放置森林対策行動計画（2013年12月改定）				
国等の政策、社会情勢等	施策 No.4「低炭素化の推進（家庭）」参照 森林環境税の導入（2016年～）				
(参考) 講じた施策に記載した施策事業コスト	2014年度（決算額）（千円）	2015年度（決算額）（千円）	2016年度（決算見込額）（千円）		
	0	0	0		
※各年度で「講じた施策」への掲載事業が異なることから、新規事業の有無等に関わらず、年度間でコストの増減がある。					
取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績		
①	間伐の実施面積	府地球温暖化対策実行計画の進行管理において把握	312ha（2014年度）、445ha（2015年度）、384ha（2016年度）		
②	間伐材の利用量	同上	9,194 m ³ （2014年度）、9,415 m ³ （2015年度）、調整中（2016年度）		
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況 ※	主な事業の名称	事業の実施状況	
	森づくりの推進	☆☆	・治山事業 ・森林造成事業 ・森林整備加速化 ・林業再生 ・花屏風整備の推進 ・共生の森づくり活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・治山事業 森林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から府民の生命財産を保全。 工事地区数：30地区（2016年度） ・森林造成事業 森林が有する多面的な公益的機能を高度に発揮させるため、間伐をはじめとする森林整備の実施を支援。森林環境保全直接支援事業等において、下刈9ha、除間伐234ha、枝打ち1ha、森林作業道18,229m（2016年度）の整備を行った。 ・森林整備加速化・林業再生事業： 森林再生基金を活用し、放置森林等荒廃森林の再生と適切な維持・保全を図るとともに、地球温暖化対策にもつなげるため、間伐や路網整備等の森林整備から木材の生産流通、利用までを総合的に支援することにより、大阪の森林を再生し、豊かな自然環境の形成を図った。 支援団体数1団体（2016年度） ・森林ボランティア参加者数：12,605人（2014年度）、11,777人（2015年度）、調査中（2016年度） ・花屏風整備の推進 植栽数：767本（2016年度） ・共生の森づくり活動支援事業 堺第7-3区産業廃棄物処分場の「共生の森（約100ha）」において、NPO等多様な主体との連携による森づくり活動、自然環境学習等を実施。毎年1,500人前後が参加 	
			・森林整備地域活動支援事業 ・一園一室木のぬくもり推進事業 ・子育て施設木のぬくもり推進事業	森林経営計画策定：43箇所・3,872ha（～2016年度） 一園一室木のぬくもり推進事業：22園（2013年度～2015年度） 子育て施設木のぬくもり推進事業38園（2016年度）	
			アドプトフォレスト制度による企業の森づくり	2014年度：新規参加事業者2団体、協定更新事業者4団体 2015年度：新規参加事業者4社、活動地追加1社、協定更新事業者4社 2016年度：新規参加事業者1社、活動地追加0社、協定更新事業者10社	
			都市緑化の推進	☆☆	建築物緑化促進事業 みどりの風促進区域の取組
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗／☆☆計画どおり／☆計画以下の進捗／△計画とは異なる事業内容で進捗					
評価	評価	理由等			
	施策目的の達成状況	順調に進捗している			
	事業・工程の進捗状況	概ね想定どおり進捗			
計画見直し又は改善事項	見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等			
	目標	無			
	施策の方向・主な施策	無			
	工程表	無			

	その他の改善事項	無	
関係課室	みどり推進室		

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	評価指標は適切であると思われるが、進捗評価の際に、計画どおりとか、計画以上の進捗であるとか評価するためには、事前に「計画」や「見直し」が定量的に示される必要がある。	同左。	同左。